

● 合格講座 共通科目テキスト/専門科目テキスト 全6冊(受講料込)

※写真は2025年度のテキスト画像を掲載しています



各編ごとの出題傾向と合格のための学習ポイントを明記!

合格に近づく確認項目も掲載!

出題傾向表

無断転載・頒布を禁じます LEC東京リーガルマインド

第1編 医学概論

【出題傾向と学習のポイント】

項目	37回	38回	39回	34回
心身の変化		○	○	
老化と加齢				○
健康の概念				
国際生活機能分類(ICF)		○	○	○
身体構造と心身機能		△		
障害の概要		◎	◎	○
精神疾患の診断統計マニュアル(DSM-5)		○	△	○
リハビリテーション				○
疾患の予防・治療		◎	◎	
公衆衛生				

過去に出題された箇所を点線で囲み、出題項目を把握できるよう工夫!

確認項目

医学概論 確認項目①

- 無断転載・頒布を禁じます LEC東京リーガルマインド
- 医学概論 確認項目①
- スキヤモンの臓器別発育曲線は、20歳時の成長を100%として表す。
(P4 五 スキヤモンの臓器別発育曲線)
 - スキヤモンの臓器別発育曲線の一般型(器官や身長発育)は、新生児期や乳児期に最も著しく発育するS字型を示す。
(P4 五 スキヤモンの臓器別発育曲線)
 - 生後7か月では、寝返りが打てる。
(P5 1 粗大運動)
 - 加齢に伴う身体の変化として、心臓の収縮期血圧(最高血圧)が上昇する。
(P12 1 循環器系の加齢変化)
 - 加齢に伴う身体の変化として、肺の残気量が増加する。
(P12 2 呼吸器系の加齢変化)
 - 加齢に伴う身体の変化として、下部食道括約筋の収縮力が低下する。
(P12 3 消化器系の加齢変化)
 - 加齢に伴う身体の変化として、膀胱容量が低下する。
(P13 6 腎泌尿器系の加齢変化)
 - 加齢に伴う身体の変化として、聴力は高音域から低下する。
(P13 8 感覚器系の加齢変化)

三 パーキンソン病

パーキンソン病は、**レビー小体**が脳幹(中脳黒質)の狭い範囲に出現して、脳内のドーパミンが不足している神経難病です。パーキンソン病は、アルツハイマー型認知症に次いで多い神経変性疾患(人口10万人当たり100人以上)です。主に40~50歳以降に発症して、ゆっくりと進行する神経変性疾患で介護保険の特定疾病になっています。

パーキンソン病の主要な症状は、**運動症状と精神症状、自律神経症状**に分類されます。主な運動症状は、①じっとしている時に手足が震える(安静時振戦)、②動作が鈍くなる(動作緩慢、暴動)、③手足が硬くなる(筋強剛)、④前かがみで転びやすくなる(姿勢反射障害)の4つが挙げられます。その他には、**仮面様顔貌、脂顔、小字症、すくみ足、小刻み歩行、加速歩行**などがあります。

治療は、**L-DOPAの内服**が一般的です。その他にも治療薬(抗パーキンソン薬)があります。また、脳深部刺激療法とL-DOPA持続経腸療法(デパイス)補助療法もあります。なお、パーキンソン病に類似した症例、多発性脳梗塞等の脳循環障害・レビー小体型認知症等の神経変性疾患・向精神薬の副作用によるパーキンソン病様の病態などをパーキンソン症候群とよびます。

◆ パーキンソン病 4大症状

安静時振戦(振戦)	安静時の律動的な振戦で不安や緊張が増強する
筋強剛(歯輪)	力を抜いた状態で関節を他動させた際に抵抗がある現象 パーキンソン病では特異的に歯車現象が出現する
アキネジア(暴動・無動)	運動が緩慢となり運動量が減少する 前傾姿勢での歩行・すり足・小刻み・すくみ足が現れる
姿勢保持反射障害(姿勢反射異常)	バランスが崩れたときの反射が弱くなる 立位で軽く押すと突進し倒れやすい突進現象がある

合格者の声

重要度や過去の出題例がひと目でわかり、重要ポイントが枠で囲んであったので、意識して勉強に取り組みました。表にまとめたテキストはとでもわかりやすく有難かったです。
S・Mさん(50代福祉相談員)

合格者の声

各科目で出題傾向が説明されているので、自分がどのように学習を進めるべきかポイントを掴みやすかった。
K・Yさん(50代会社員)

学習した内容の理解度チェックのため、講義内では適宜、『〇×式確認テスト』を実施

新しい知識を得た後、すぐに確認することで、受講後、重点的に見直すべき箇所が明確になり、復習がスムーズに行えます。

Web講義は、視聴速度調整も自由自在

再生スピードを細かく調整することができるので、理解できる部分は受講時間を短縮、逆に分かりにくいところはじっくりと受講することができます。(スマホ:0.6倍速~2.0倍速/パソコン:0.5倍速~2.0倍速)

